

Taxonomical notes on Asiatic Rubus
(Rosaceae)(3): A scientific name of a form of
Rubus hirsutus, R. hirsutus f. obtusifoliolus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053383

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



鳴橋直弘¹・橋本光政²：アジア産キイチゴ属の分類学的ノート (3) クサイチゴの一品種 マヤクサイチゴの学名

Naohiro Naruhashi and Mitsumasa Hashimoto: Taxonomical notes on Asiatic *Rubus* (Rosaceae) (3)
A scientific name of a form of *Rubus hirsutus*, *R. hirsutus* f. *obtusifoliolus*

クサイチゴ *Rubus hirsutus* Thunb. には、花卉が八重になるヤエザキクサイチゴ *R. hirsutus* Thunb. f. *harae* (Makino) Ohwi (Makino 1913; Ohwi 1953), 果実が黄色に熟すキミノクサイチゴ *R. hirsutus* Thunb. f. *xanthocarpus* (Nakai) Sugim. (Nakai 1930; 杉本 1961), 単葉と3出葉をもつマルバクサイチゴ *R. hirsutus* Thunb. f. *simplicifolius* (Makino) Ohwi (Makino 1902; Ohwi 1953) の品種が知られている。

マヤクサイチゴ *R. hirsutus* Thunb. f. *obtusifoliolus* Naruh. et M. Hashim. は、文献によれば、1951年に室井 綽 (川崎・室井 1959, 1964) によって神戸市摩耶山にて発見された植物で、クサイチゴの小葉先端が鋭形である (Fig. 1 F) のに対して、マヤクサイチゴは鈍頭である (Fig. 1 E)。この植物は、兵庫県の植物の本『兵庫県生物誌』(河原他 1956), 『国立公園六甲の自然』(川崎・室井 1959), 『六甲の自然』(川崎・室井 1964), 『兵庫の自然』(北村他 1966), 『増補六甲山系植物誌』(室井 1971), 『兵庫県植物目録』(紅谷 1971), 『六甲の自然』(室井 1982), 『兵庫県の樹木誌』(橋本 1995), 『六甲山地の植物誌』(小林他 1998) の中で取り上げられてきた。その植物の学名が最初に登場したのは、1961年出版の『日本樹木検索誌』(杉本 1961) である。その後の出版物、例えば室井 (1971), 紅谷 (1971), 杉本 (1972), 橋本 (1995), 小林他 (1998) には学名が書かれている。また、室井・岡村 (1962) は上記とは異なる学名を使用している。しかし、『兵庫県の樹木誌』に書かれているように、筆者らは、これらの学名が正式発表されたことを知らない。

ハーバリウムに収蔵されているマヤクサイチゴの標本は、筆者らの知る限り28点で、頌栄短期大学 (SHO) 8点、大阪市立自然史博物館 (OSA) 8点、兵庫県立人と自然の博物館 (HYO) 5点、京都大学総合研究博物館 (KYO) 2点、国立科学博物館 (TNS) 2点、東京大学 (TI) 1点、金沢大学理学部 (KANA) 1点、金沢大学薬学部 (KANAP) 1点、である。そのうち、一番古い標本は、室井 綽、1951年6月12日採集 (頌栄短期大学収蔵) のものである。

室井 綽によってマヤクサイチゴが発見されたのは神戸市の摩耶山であり、その後も摩耶山からである。しかし、1994年に藤井俊夫氏は兵庫県三田市弥生ヶ丘深田公園で採集している。その藤井氏に採集した場所を案内していただいたが、絶滅したのか、全く見つけることができなかった。よって本植物の現存するのは、摩耶山のみと考えられる。

1992年に近藤浩文氏より摩耶山より採集し自宅栽培のマヤクサイチゴの生植物をいただき、鳴橋は富山大学にてしばらく栽培していた。また、橋本は同年以来現在まで姫路の庭でも栽培し観察を続けている。確かに、クサイチゴとは葉の形が違い、区別できるものである。それ以外の形質、花、果実、茎、根等では、クサイチゴと同じである (Fig. 1, A, B, C and D)。

筆者らは、2008年、花期の4月15日と果実期の6月18日に摩耶山の現地を訪れ、本植物を観察することができた。

マヤクサイチゴは、摩耶山の標高約200m、山道沿いの傾斜約30度の南南西の斜面にあり、アキニレ *Ulmus parvifolia* Jacq., イロハカエデ *Acer palmatum* Thunb. ex Murray, エノキ *Celtis sinensis* Pers. var. *japonica* (Planch.) Nakai に囲まれたやや開けた林の中に生育していた。面積としては5×5m²で、その場所のみ他の植物がまばらに生えている。混生していた植物は、アラカシ (幼木) *Quercus glauca* Thunb. ex Murray, ミズヒキ *Antenoron filiforme* (Thunb.) Roberty et Vautier, アオスゲ *Carex breviculmis* R. Br., ヤマトウバナ *Clinopodium multicaule* (Maxim.) Kuntze, ニセアカシヤ (幼木) *Robinia pseudoacacia* L., オオアレチノギク *Conyza sumatrensis* (Retz.) E. Walker, ツユクサ *Commelina communis* L., イヌタデ *Persicaria longiseta* (Bruyn) Kitag., オニタビラコ *Youngia japonica* (L.) DC., イタドリ *Reynoutria japonica* Houtt., エノキ (幼木), ガンクビソウの1種 *Carpesium* sp., ヤブソテツ *Cyrtomium fortunei* J. Sm. であった。

『山口県植物研究会会報』vol. 3 no. 8に、真崎 博 (2007) 氏が、山口市徳地町野谷四氏谷川産の‘仮称マルバクサイチゴ’のシルエットを載せている。一見したところ、この植物はマヤクサイチゴに似ている。早速、真崎氏に花と果実の標本の作成と、葉の特徴の良く出る初年茎 (primocane) の標本をお願いした。今回山口県産の仮称マルバクサイチゴの標本と兵庫県産のマヤクサイチゴを比べてみると、仮称マルバクサイチゴの方が小葉先端に鋭形のものが出る可能性があるが、両植物は同じものと見なしてよいと思われた。これらに共

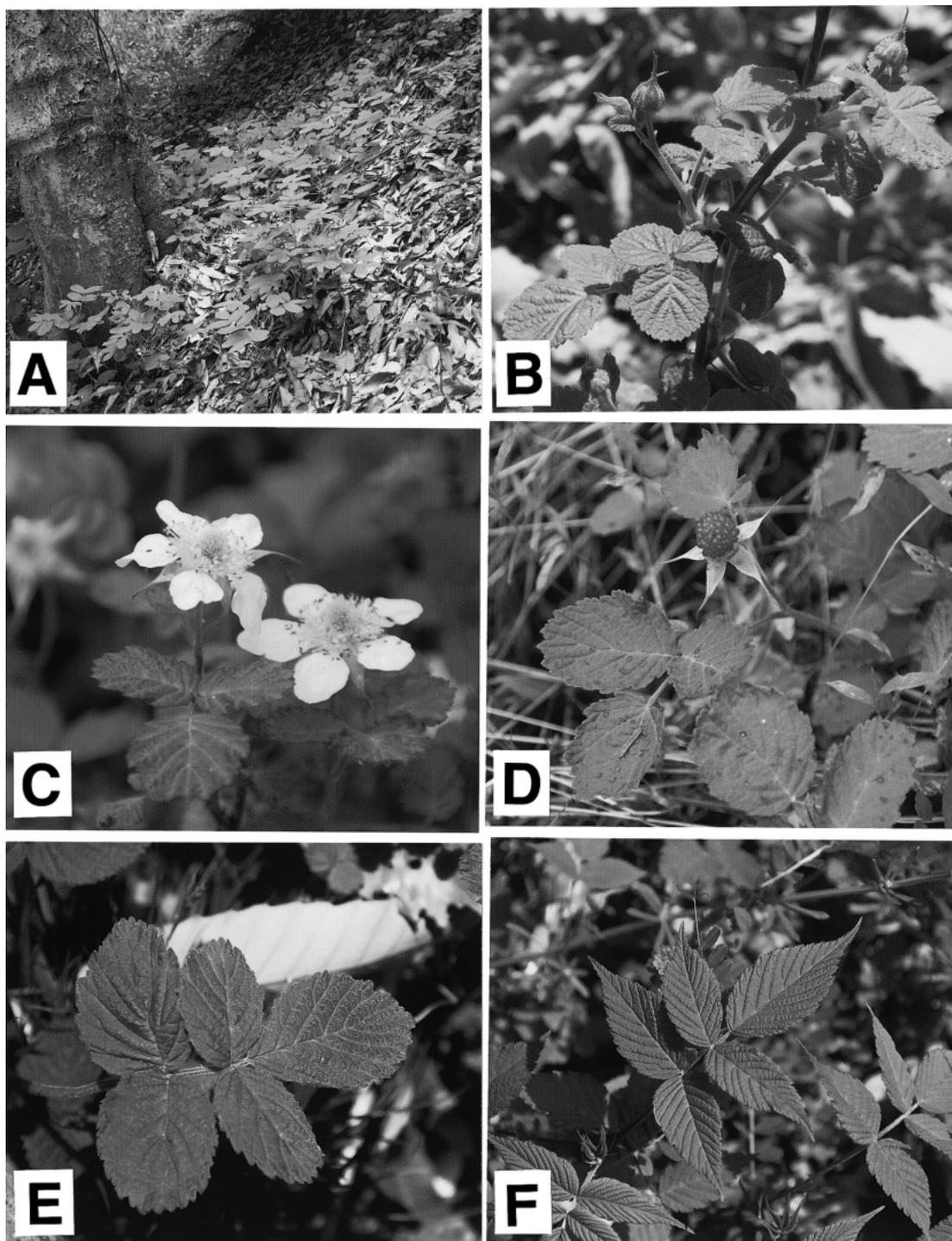


Fig. 1. A-E, *Rubus hirsutus* f. *obtusifoliolus*. A, Plants growing at Mt. Maya in Kobe-shi, Hyogo Pref. (Jun. 11, 2008); B, Twigs with buds at Mt. Maya (Apr. 5, 2008); C, Twigs with flowers of the plants cultivated in Himeji-shi, Hyogo Pref. (Apr. 23, 2008); D, Twig with an aggregate fruit of a plant cultivated in Himeji-shi (May 28, 2008); E, A pinnate leaf of primocane at Mt. Maya (Apr. 15, 2008). F, A pinnate leaf of primocane of *R. hirsutus* f. *hirsutus* at Mt. Maya (Apr. 15, 2008).

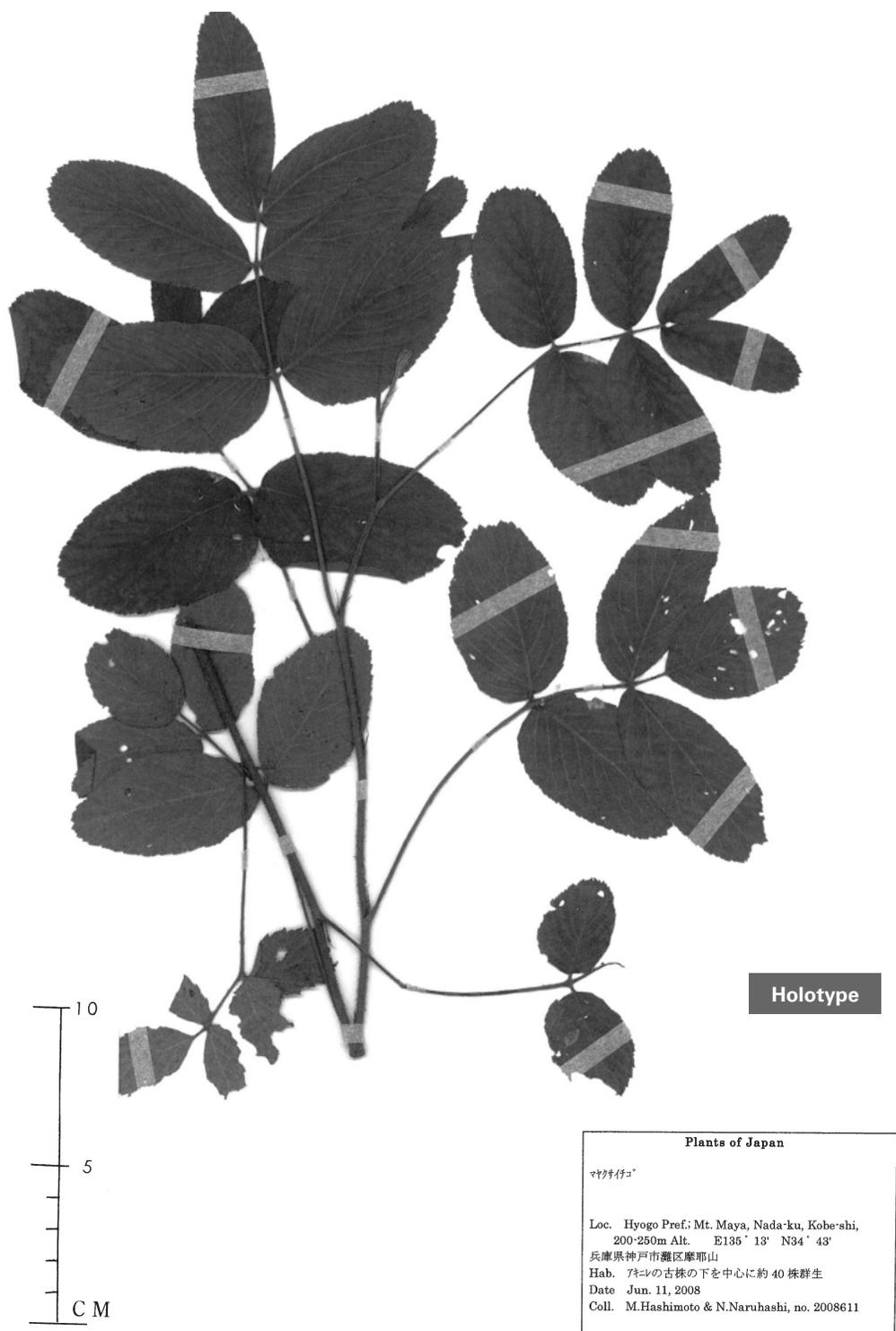


Fig. 2. Holotype specimen of *Rubus hirsutus* f. *obtusifoliolus* showing primocane.

通の特徴として、クサイチゴは小葉 3~5 枚の奇数羽状複葉のみであるが、これらには小葉 2~6 枚の偶数羽状複葉が混じることである。特に山口県産のものは、一對の小葉の葉になることが多い。

植物を戴いた近藤浩文氏、標本を戴いた真崎 博氏、産地を案内下さった藤井俊夫氏、標本の閲覧を許可下さった兵庫県立人と自然の博物館の高橋 晃氏、金沢大学理学部の故里見信生先生、金沢大学薬学部の御影雅幸氏、国立科学博物館の近田文弘氏と浜崎恭美氏、京都大学の永益英敏氏、頌栄短期大学の黒崎史平氏、東京大学の故原 寛先生、および文献でお世話になった瀬戸 剛氏と福田知子氏に心より感謝いたします。

Rubus hirsutus Thunb. f. ***obtusifoliolus*** Naruh. et M. Hashim., form. nov. (Figs. 1 A, B, C, D, E, 2)

Rubus hirsutus Thunb. f. *obtusatus* Ohwi, in sched.

Rubus hirsutus Thunb. f. *obtusatus* Ohwi; Sugimoto, New Keys Jap. Trees 204 (1961), nom. nud.

Rubus hirsutus Thunb. f. *rotundissimus* Ohwi; Muroi et Okamura, Hyogo Seibutsu 4 (3-4) : 181 (1962), 'rotundissima', nom. nud.

Planta foliolis obtusissimis a congeneribus diversis, cetera ut in typo.

Japanese name : Maya-kusa-ichigo (H. Muroi 1951)

Type : Mt. Maya, Nada-ku, Kobe-shi, Hyogo Pref., Jun. 11, 2008, M. Hashimoto and N. Naruhashi, no. 2008611 (holotype, OSA; isotype, HYO, KANA, KYO, MAK, TI, TNS, TOYA)

Specimens studied. Japan. **Hyogo Pref.** Mt. Maya, Nada-ku, Kobe-shi : H. Muroi Jun. 12, 1951 (SHO), Jul. 1952 (SHO), Apr. 28, 1961 (KANA, TI), Apr. 28, 1962 (TNS), no data (SHO), Kobe Wom. Phamac. Univ. no. 7030 (KANAP), R. Okamoto Dec. 24, 2000 (SHO), Apr. 15, 2001 (SHO), T. Kobayashi no. 37140 (KYO, SHO), M. Hashimoto and N. Naruhashi no. 2008415 (OSA), 2008611 (OSA). Cultiv. from Mt. Maya : H. Taniguchi no. 14 (HYO), M. Hashimoto no. 22069 (HYO), 22070 (HYO), N. Naruhashi no. 92042901 (OSA), H. Kondo no. 21913 (HYO), T. Kobayashi no. 38063 (KYO, SHO), M. Hashimoto no. 2008413 (OSA), 2008516 (OSA). Fukada Park, Yayoigaoka, Sanda-shi : T. Fujii no. 3656 (HYO). **Yamaguchi Pref.** Shujidanigawa, Notani, Tokuji-cho, Yamaguchi-shi : H. Masaki no. 200805018 (OSA), 200806031 (OSA), 200807012 (OSA).

Note : *Rubus hirsutus* f. *hirsutus* displays imparipinnate leaves with 3-5 leaflets on primocane, whereas f. *obtusifoliolus* has often imparipinnate leaves mixed with paripinnate leaflets. Leaflet apices of the former are acute to acuminate, while those of the latter are obtuse to rounded and rarely acute. The described new form thrives in two places, Mt. Maya in Kobe-shi and Yamaguchi-shi, although the form has been collected from three localities.

引用文献

- 紅谷進二 (編). 1971. マヤクサイチゴ. 兵庫県植物目録, p. 92. 六月社書房, 大阪.
- 橋本光政. 1995. マヤクサイチゴ. 兵庫県の樹木誌, pp. 138, 545. 兵庫県, 神戸.
- 河原 巖・林 中元・永井憲之. 1956. 六甲連山の植物. 兵庫県生物学会 (編). 兵庫県生物誌, pp. 77-80. 兵庫県生物学会, 神戸.
- 川崎正悦・室井 綽. 1959. 六甲の特産植物. 室井 綽 (編). 国立公園六甲の自然, pp. 14-21. 六月社, 大阪.
- 川崎正悦・室井 綽. 1964. 六甲の特産植物. 室井 綽ほか. 六甲の自然, pp. 14-16. 六月社, 大阪.
- 北村博史・村松義敏・林 中元. 1966. 植物の宝庫六甲山. 紅谷進二 (編). 兵庫の自然, pp. 66-67. 六月社, 大阪.
- 小林禎樹・黒崎史平・三宅慎也. 1998. 六甲山地の植物誌, p. 139, pl. 25. 神戸市公園緑化協会, 神戸.
- Makino, T. 1902. Observation on the flora of Japan. Bot. Mag. Tokyo 16 : 87-90.
- Makino, T. 1913. Observation on the flora of Japan. Bot. Mag. Tokyo 27 : 69-81.
- 真崎 博. 2007. 山口県産高等植物についての新知見. 山口県植物研究会会報 3(8) : 10-12.
- 室井 綽. 1982. 六甲で発見された植物. 室井 綽・清水美重子 (編). 六甲の自然, pp. 23-25. 神戸新聞出版センター, 神戸.
- 室井 綽 (補). 1971. マヤクサイチゴ. 岡本省吾. 増補六甲山系植物誌, pp. 5, 115. 六月社書房, 大阪.
- 室井 綽・岡村はた. 1962. 六甲山系植物誌補遺. 兵庫生物 4(3-4) : 179-181.

- Nakai, T. 1930. Notulae ad Plantas Japoniae & Koreae XXXIX. Bot. Mag. Tokyo **44** : 507-537.
- Ohwi, J. 1953. New names and new combinations adopted in my "Flora of Japan". Bull. Nat. Sci. Mus. (33) : 66-90.
- 杉本順一. 1961. マヤクサイチゴ. 日本樹木総検索誌, p. 204. 六月社, 大阪.
- 杉本順一. 1972. マヤクサイチゴ. 新日本樹木総検索誌, p. 197. 井上書店, 東京.
- (¹〒591-8022 堺市北区金岡町 1046-1 ; ²〒670-0081 姫路市田寺東 4-12-10 ¹Kanaoka-cho 1046-1, Kitaku, Sakai 591-8022, Japan ; ²Tadera-higashi 4-12-10, Himeji 670-0081, Japan)